

2021年度

学校評価（自己評価）

目標	
	子どもが集団の中で、遊びを楽しみ、育ち合う。
計画	
	○幼稚園生活の中で、子ども達一人ひとりの“個”の存在を大切にしながら、物事に向き合う力や、集団の中の一人としての意識を育てる。 ○生活する基礎を培い、生きる力を養う。 ○今ある環境を活かし、親育てをしながら、子どもの心を育む。

<今年度の取り組み>

2021年度は前年度の経験からウィズコロナでの新しい生活様式を取り入れ、できる限り活動を止めることなく行事は形を変えて取り組んできました。そのような中、4月と9月にコロナ陽性者が判明し、濃厚接触者が増えたため3日間の休園を決定しました。2月には第6波に入り陽性者が次々に判明するものの、この時期から施設の判断で濃厚接触者の特定をすることとなり、休園ではなく学級閉鎖の処置をとることにいたしました。それに伴い子ども会を中止し、2月末から約2週間の期間で新しい活動であるグレースオリンピックを開催する運びとなりました。保護者の皆様には楽しみにされていた子ども会が中止となり、またグレースオリンピックも観戦することができず、園での子ども達の姿を写真でしか見ることができなくなった1年となりました。昼食当番も3月だけ年長の保護者にしてもらいましたが、飲食なしと味気ないものとなりました。そういった点で保護者との連携は十分でなかったと課題がのこりました。ただ、卒園式は1クラスずつ3回行い、両親の参加をOKとしました。また、年長組の担任が動画を撮り溜め、1枚のDVDにしたものを卒園児一人ずつにお渡ししました。

- 4月
- ・入園式は1クラスずつ4回行いました。コロナ陽性者が判明し3日間の休園。
 - ・春の遠足は全学年中止。

- 5月
- ・こどもの日の集いは先生たちが劇をしている映像をホールのスクリーンで見せた。
 - ・日曜参観は中止。

- 6月
- ・乗り物づくりや乗り物ごっこは通常通り行った。
 - ・色水あそびやどろんこ遊び、プール遊びを楽しんだ。プールは各クラス半分ずつ短い時間で入った。塩素を使ったプールなのでゴーグル着用OK。

- 7月
- ・プラネタリウムに行った。
 - ・一泊保育は初めて幼稚園に泊まった。キャンプファイアも園庭で行い、先生たちの仮装もスムーズにできた。ただ、温水シャワーが砂場前に設置されているのでテントを張ってシャワー室にして子ども達を洗うという方法で湯舟に浸かるということではできなかった。コロナのため…冒険ゲーム（グループごとに協力してそれぞれのポイントにある問題を解決するというもの）は万博公園で行ったが、とても暑かった。幼稚園での一泊は体調不良になる子が少なく安心できたからだと思う。

- 8月 ・夏期預かり保育の利用人数が毎日約100人になる。1・2歳児クラスではコロナ陽性者が判明し学級閉鎖を7日間行った。※1・2歳児クラスはマスクをしていないため全員が濃厚接触者になる。
- 9月 ・暑い日が続いていたので、色水遊びやどろんこ遊びを継続して行う。
・2週目にコロナの陽性が判明、休園3日間。
- 10月 ・運動会は22日と例年より遅めで万博公園のグラウンドで行った。
- 11月 ・バザーは在園児のみで1部と2部に分け、委員さんが店の当番をし、子どもだけで回るという方法で行った。教師が誘導係をする。
・秋の遠足は緑地公園へ歩いて行った。
・社会見学は千里山バスに乗って天王寺動物園に行き、帰りもバスで迎えに行った。
・お店屋さんごっこ、動物園ごっこ例年通り実施。
・スカイパークにも行く。
- 12月 ・クリスマス会はホールでディナーを食べずに保育室に分かれて食べた。それ以外は例年通り。
・もちつきはお手伝いの出入りの業者は呼ばず、実行委員さんと職員で行った。
- 1月 ・やきいも大会は例年通り実施。
・こま回し大会も例年通り実施。
- 2月 ・節分は今年度から豆を使わずボールや新聞を丸めて投げ合う。豆が喉に詰まる危険な事例が増えているため。
・ほとんどのクラスが学級閉鎖となり、陽性者が一度に増える。
・劇を作っていく時間がなく、年長・年中は合奏のみ（うた無し）。
・年少は劇あそびを行う。年少組同士で見せ合い。
・2月末からグレースオリンピックを開催。
- 3月 ・10種類以上の競技（家にいてもできるクイズもあり）を用意し、クラス対抗でポイントを競う。閉会式ではメダルを全員に渡す。
・ひなまつり音楽会を2年ぶりに開催する。テレマンアンサンブル来園。
・お別れ遠足例年通り実施。←万博公園
・お別れ会は年長組の保護者のみ参加し、人形劇やコーラスを披露してもらう。
・卒園式は1クラスずつ3回行う。ただ、担任以外の教師が式に参加するため花道は担任のみとなった。
・卒園式当日、コロナのため4名が欠席し、その4人のために2週間後に再度卒園式を実施した。

※退職者 … 岸畑、阿部、藤田あかりの3名

※卒園記念 … 屋上の低年齢児遊具と土管

評価項目		
心身の健全な成長（あそび）	体を十分に動かしてあそびを楽しむことができる。	△
	好きな遊びを見つけて存分に楽しむことができる。	○
	園の職員全員で子どもを育てている。	△
	様々な活動に挑戦する中で、友達と刺激し合い達成感を味わうことができる。	△
	他学年との交流をもち、育ちに生かしている。	△
	自分に自信を持ち、友達を認めることができる	○
	思いを言葉で伝え合い、豊かな表現力を身に付けることができる。	○
	遊びを通して相手の気持ちに気づき折り合いをつけることができる。	○
	戸外での遊びを通してバランスの良いからだづくりができています。	△
	子ども達自ら遊びを工夫し、ルールや役割のある遊びを作り出す。	○
じっくりと遊びの時間をもっている。	△	
教育環境（自然）	園内の自然（樹木、果実、花、動物、虫、畑の野菜）を通して季節を感じるができる。	○
	いきものに接することで“命の大切さ”を知ることができる。	○
	畑の野菜を育てることで生長、収穫、食べ物のありがたみを知る。	○
	夏期等、あずかりの体制が整えられている。	○
	木の実や落ち葉などの自然物を使って遊ぶことができる。	△
	実際の自然に触れ、五感を使って感じてみる。	△
	教師自身が園庭の木々や草花を知り、子どもの興味関心の動機づけができる	△
	起伏のある広大な敷地で遊ぶことができる	○
植物や動物を育て、その成長に興味関心をもつ。	○	
保健衛生（食育）	季節の伝統料理を頂く。	○
	食に対する意欲をもち、マナーを身につける。	○
	旬の食材や自園で採れた野菜を味わえる。	○
	アレルギー対応ができています。	○
	専任の保健師がおり、怪我の対応（簡易処置）を適切に行える。	○
	健康に過ごすための季節ごとの注意点を看護師や教師から教えてもらう。	○
	食育を保護者にも考えていけるように栄養士との相談会を企画し家庭での食育に園が力を発揮する。	○
保護者との連携	家庭訪問を行い、子どもが育つ環境を理解している。	×
	子育て相談、カウンセリングなど、保護者を支える体制が整えられている。	△
	ホームページで日々の子どもの姿を知ってもらう。	△
	保護者に、より保育のねらいなどを理解してもらう機会（参観や講座、懇談、グレース会、行事など）をもつ。	△
	クラスや個人の様子などを、電話やお便りで保護者に丁寧に伝えられるよう努めている。	○
	活動の過程を見ってもらう機会をもつ。	△
就学準備	グループ活動、リーダー活動を通して責任をもって行動することに気づく。	△
	文字、数字に興味をもつために、生活の中に工夫して取り入れていく。	○
	一つの目標にみんなで取り組み、達成感、満足感を味わう。	○
	一人ひとりの違いを認め共に育つようすすめていく。	○
	基本的な生活習慣を身に付ける。	○
	規範意識を身に付ける。	○
その他	卒園生へも園へ来ることのできる機会を与え、その後のつながりをもっていく。	×
	職員としての品位を保つよう心がけている。	△
	個々の教師としての向上心、同僚との意識の高め合いが感じられる。	△
	地域との関わりをもち、地域とも連携し、子育てを行っていく。	△

<今後の課題>

- ・コロナに関してはこの1年で対応も大きく変化し、今では濃厚接触者の特定は園に一任され、スピーディーに判断できることとなった。また、休園ではなく、学級閉鎖という方法で保育を止めないことが可能となった。できる限りの対策を講じ保育を継続していくことに力を注いでいきたい。
- ・参観や懇談は今年度もあまりできなかったが、体育参観など園外でできるものは参観してもらう機会を作った。年長組の最後の懇談はZoomを使う。初めての試みであったが、思った以上にスムーズにでき、今後も進んで活用していきたい。いろいろな方法を使って保護者との連携も大切にしていきたい。
- ・SDGsについての取り組みは積極的に行っていない。ただ、お皿を木製に変更したり、お茶の量を調節したり、ペーパータオルの使い方などを指導したりと、自然と物を大切にする意識が教師にも子ども達にも芽生えてきており、次年度もじわじわとSDGsに関する取り組みを増やしていきたい。